



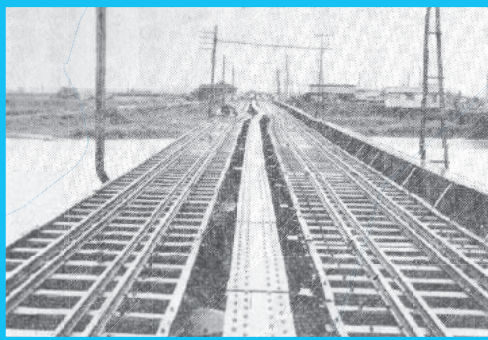
守山を襲った過去の災害から学ぶ

過去から続く災害との闘いから得た教訓を今に活かすための防災記録簿 **写真編**

写真① 伊勢湾台風で倒壊した農家



写真② 伊勢湾台風で倒壊した日本毛織工場



写真④ 昭和27年の豪雨によりレールの曲がった矢田川鉄橋

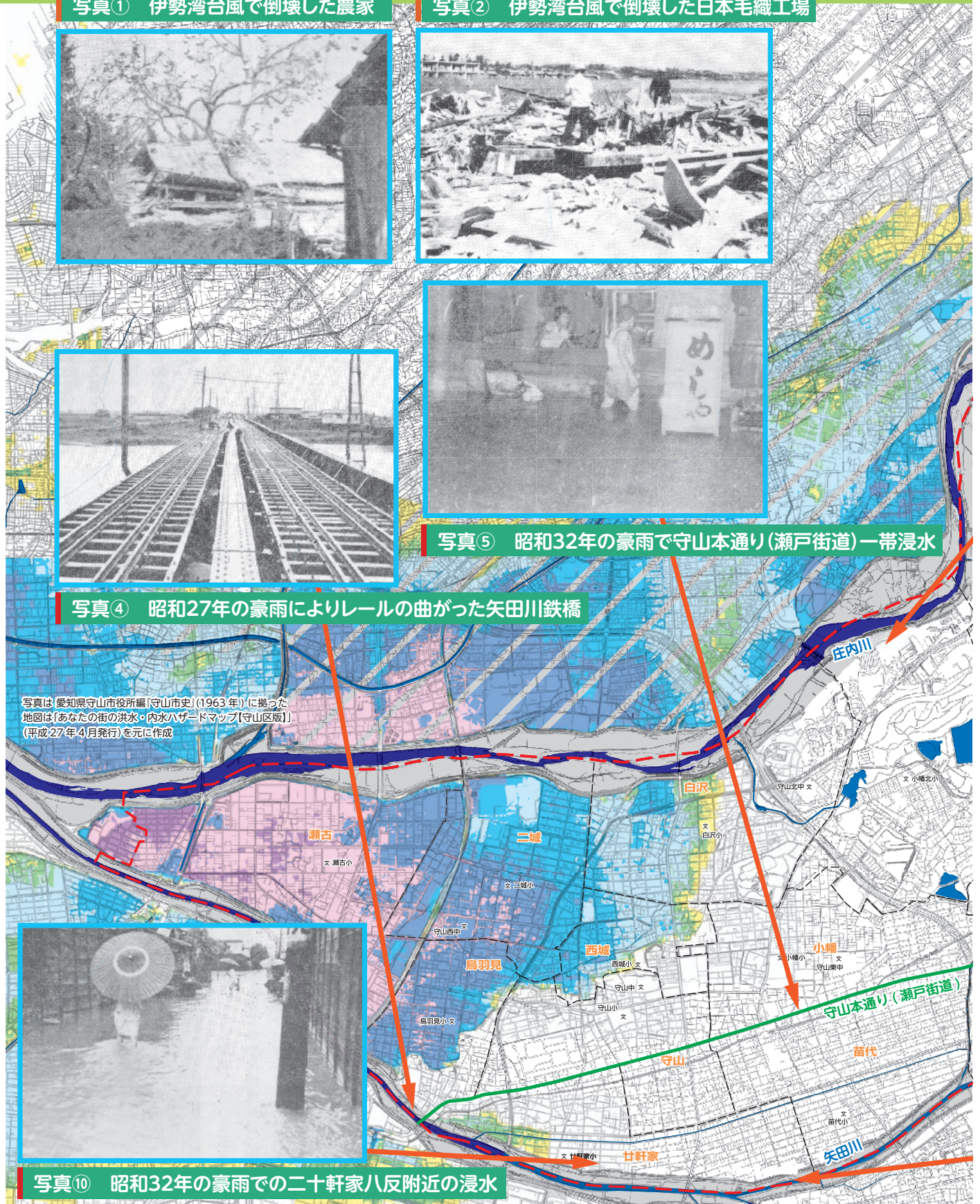
写真⑤ 昭和32年の豪雨で守山本通り(瀬戸街道)一带浸水



写真は 愛知県守山市役所編「守山市史」(1963年)に拠った
地図は「あなたの街の洪水・内水ハザードマップ【守山区版】」
(平成27年4月発行)を元に作成



写真⑩ 昭和32年の豪雨での二十軒家八反附近の浸水



庄内川・矢田川・香流川が、はん濫した場合(洪水)

河川のはん濫が予測された場合に、避難勧告などが発令されます。
避難などの参考にしてください。

(説明文)

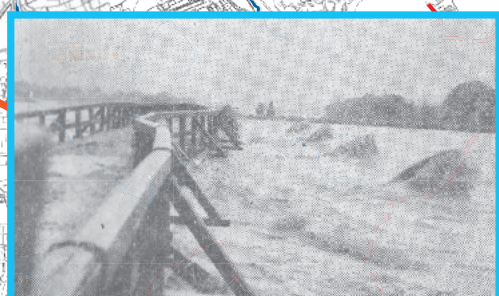
- ・この図は、国土交通省や愛知県が公表した浸水想定区域図を基に作成しました。
- ・浸水想定区域図は、現在の河川の整備状況で、各河川の計画規模の雨が降った場合に発生が予想される洪水(外水はん濫)について、想定される浸水区域と浸水深をシミュレーションにより求めたものです。
- ・想定を超える大雨が降った場合や、支川のはん濫等は考慮していませんので、**実際の浸水区域や浸水深がこの図より大きくなる場合があります。**

一 計画規模の降雨条件 一

庄内川 概ね200年に1回程度起こる大雨 24時間総雨量376mm
矢田川 概ね200年に1回程度起こる大雨(宮前橋下流) 24時間総雨量376mm
香流川 概ね 30年に1回程度起こる大雨 24時間総雨量277mm ピーク時1時間雨量80mm



写真③ 伊勢湾台風で倒壊した龍泉寺公会堂



写真⑥ 昭和32年の豪雨で流失寸前の志段味橋

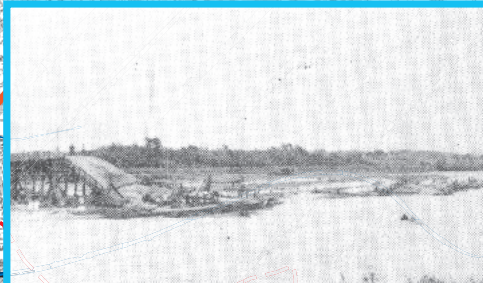


写真⑦ 伊勢湾台風で倒壊した大森小学校南側校舎



浸水深

- 5.0m以上
- 4.0m~5.0m 未満
- 3.0m~4.0m 未満
- 2.0m~3.0m 未満
- 1.0m~2.0m 未満
- 0.5m~1.0m 未満
- 0.5m 未満



写真⑧ 昭和27年の豪雨で流された大森橋



写真⑨ 昭和28年の台風13号で決壊した小幡太田井えん堤



守山を襲った過去の災害から学ぶ

過去から続く災害との闘いから得た教訓を今に活かすための防災記録簿

守山区の地理的特徴

守山区は、市の東北部に位置し、南に矢田川、北に庄内川が流れ、区の東北端の東谷山(標高198.3m)から西南に向かって丘陵地帯が広がる起伏にとんだ地形となっています。

南北を二つの大きな川に挟まれた地形から、守山区では昔から河川の氾濫等による水害に悩まされてきたという特徴があります。

明和の大洪水

1767年(明和4年)に起きた明和の大洪水では、「矢田川が長母寺と宝勝寺の間を押し破った『稀なる洪水』で『後世まで亥年の洪水』(『天保会記』)といわれた大洪水であった」とされ、また「庄内川でも被害があり、吉根村では観音寺はじめ五軒が流失、『田十一町余』が砂入し、不毛の地となった」とされています。 出典:守山区制50周年記念事業実行委員会編『守山区誌』(2013年)

またこの洪水によって、「長母寺北の山がくずれ」て矢田川の流れが北向きに変わったとされています。

出典:愛知県守山市役所編『守山市史』(1963年)

安政東海地震から学ぶ

1854年(安政元年)に東海沖でマグニチュード8.4の安政東海地震が発生しました。

安政東海地震では、地震による直接的被害よりも、地震で堤防が破損したことにより、続く翌年の大雨によって河川が氾濫し、甚大な浸水被害を起こすという、「複合災害」に発展しました。

このような「複合災害」のシナリオは、単純な被害想定には反映されていないので、地震によって大きな被害を受けないとされている地域でも、地震を起因とする思いもよらない被害等が現代にも起き得るということを意味しているといえるでしょう。

出典:名古屋市消防局総務部職員課編『東海望楼3月号』(2015年)

表1 守山災害年表(抄)

年	出来事	区分
1767年 (明和4年)	明和の大洪水	洪水
1854年 (安政元年)	安政東海地震	地震
1855年 (安政2年)	大雨被害	大雨
1891年 (明治24年)	濃尾地震	地震
1906年 (明治39年)	守山町と志段味村が誕生	
1944年 (昭和19年)	東南海地震	地震
1954年 (昭和29年)	守山町と志段味村が合併し、守山市が発足	
1959年 (昭和34年)	伊勢湾台風(写真①②③)	暴風雨
1963年 (昭和38年)	守山市と名古屋市の合併し、守山区が誕生(名守合併)	
2000年 (平成12年)	東海豪雨	大雨
2011年 (平成23年)	台風15号襲来。守山区では、庄内川の堤防を越え下志段味地区が冠水。吉根地区においても雨水があふれ、多くの世帯が床上浸水となる被害を受けた。	暴風雨

濃尾地震から学ぶ

1891年(明治24年)に岐阜県美濃地方西部を震源として発生した濃尾地震(マグニチュード8.0)は内陸で発生する地震としては最大級の地震で、岐阜県・愛知県を中心に7,273人もの死者を出しました。

この地震によって、「大永寺では伽藍(がらん)が倒壊し、位牌堂のみ残った」とされています。また、「庄内川その他の河川の堤防は各所で崩壊した」と伝えられており、ここでもまた複合災害の可能性を無視できないといえるでしょう。

出典:同編『守山市史』(1963年)

守山区にも輪中があった!?水害との闘いの遺構

「輪中*1」と聞いて、守山区をイメージすることはなかなかできないと思いますが、有名な木曽三川下流の他に、守山区にも「瀬古村輪中」と呼ばれた輪中があったことがわかっています。

低湿地帯で、庄内川と矢田川に挟まれた瀬古地区では古くから、大雨が降るたびに堤防が決壊し、長期間の浸水に苦しんでいました。その対策として、集落を堤防で囲む「輪中」をつくり、集落を守ってきました。現在ではほとんどが姿を消してしまいましたが、一部に当時の面影が残っています。(写真⑪) 出典:同編『東海望楼3月号』(2015年)

また、瀬古地区には現在も水害に対する自衛策として建てられた「水屋*2」がいくつか残っており、水害と闘ってきた歴史が見て取れます。(写真⑫)

*1 輪中: 水から集落や耕地を守るため、周囲を堤防で囲んだ地域
*2 水屋: 水害時に避難等をするために土を高く盛ってつくられた建物のこと



写真⑪ 瀬古村輪中のなごり



写真⑫ 瀬古の水屋

東海豪雨と都市型水害への対策

2000年(平成12年)9月11日に襲来した東海豪雨は、総降雨量が約567mmに達する未曾有の豪雨であり、市域面積の約4割が浸水被害を受けました。守山区でも西部を中心に、広範囲で浸水被害が発生しました。

これを受け名古屋市では、著しい浸水被害が集中した地域などを対象に、原則1時間当たり60ミリの降雨に対応する施設整備へレベルアップする「緊急雨水整備事業」を進めています。(写真⑬)



写真⑬ 東海豪雨後、整備された雨水貯留管

昭和の東南海地震から学ぶ

1944年(昭和19年)遠州灘・熊野灘の沿岸で大きな地震が発生した。当時は戦時中であり詳細な記録は多く残っていませんが、関東大震災ほどの規模であったと伝えられており、守山区では大永寺方面で被害が大きかったようです。また、「地面に亀裂を生じ、水が湧き出た」と言われており、液状化現象が起きた可能性もあります。

出典：同編『守山市史』（1963年）

守山の水害から学ぶ

水害年表(表2)を見ても分かる通り、記録に残っているだけでも守山区では古くから水害に悩まされてきたことが分かります。

特に1957年(昭和32年)の豪雨(写真⑤⑥⑩)では、3000戸以上が床上浸水の被害を受け、守山市(当時)に災害救助法が適用されるほどでした。また、庄内川では、志段味橋・下志段味橋・吉根橋が流失しました。矢田川では小原橋・宮前橋が流失し、名鉄瀬戸線大森駅の線路が水に覆われ、電車は不通となりました。短時間集中的に降った豪雨であったため、東谷山一帯では地滑りが起き、山の姿が改まるほどで、開拓地は壊滅に瀕したとされています。龍泉寺山北面でも広範囲に地滑りが起き、山肌が露わになり、水田を土砂が埋め尽くしました。また、牛牧方面では雨水が低地水路に集中し、当時新たに整地された地区は一瞬のうちに元の形に戻り、住居等に多大な損害を与えました。守山市史には「人工による整地も、自然の力の前にはあとかたもなくついえ去り、自然の地形がいかに根強く残っているかを示し、尊い教訓を与えた」とあり、現在のわれわれにとってもこのことは忘れてはいけない教訓であるでしょう。

出典：同編『守山市史』（1963年）

表2 守山水害年表

年	災害内容
1610年	庄内川はん濫
1632年	大雨のため庄内川増水
1666年	庄内川大洪水
1676年	尾張領内のうち浸水四十四万石
1687年	庄内川筋大水
1701年	矢田川稲生堤切れる。
1714年	庄内川大出水
1721年	庄内川大出水
1739年	庄内川左岸破堤
1757年	庄内川・矢田川破堤
1767年	明和の大洪水
1779年	暴風雨・大洪水、庄内川増水し、志段味などの堤防決壊
1815年	瀬古堤決壊
1830年	庄内川瀬古堤決壊
1850年	矢田川瀬古堤決壊
1855年	大雨被害
1865年	庄内川破堤 瀬古浸水
1868年	庄内川破堤 志段味・瀬古・幸心被害
1868年	上志段味・中志段味太白・下志段味落合・吉根下江・瀬古神守・瀬古高見で破堤
1881年	下志段味落合堤決壊
1884年	庄内川決壊 瀬古・幸心で被害
1906年	中志段味太白堤・瀬古味碗前堤決壊
1925年	三階橋・勝川橋流失
1925年	矢田川はん濫
1952年	豪雨被害 矢田川・庄内川はん濫
1953年	台風13号による豪雨被害
1957年	下志段味落合堤決壊(秋雨前線)
1983年	市東北部と春日井市を中心に局地的豪雨
2000年	東海豪雨
2011年	台風15号による豪雨被害



写真⑭ 2011年(平成23年)の台風15号による豪雨被害の後、かさ上げ等された庄内川堤防

発行／問合せ先

名古屋市守山区役所 総務課 庶務係
〒463-8510 名古屋市守山区小幡一丁目3番1号
電話：(052)796-4511 FAX：(052)794-2256



掲載記事・地図及び写真等の
無断転載・複製を禁ず

平成29年3月発行

この印刷物は古紙/パルプを含む再生紙を使用しています。